

令和2年1月31日

石巻市議会議長 木村 忠良 殿

会 派 名 ニュー石巻
代表者氏名 会長 阿部 欽一郎

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 阿部 欽一郎、阿部 久一、遠藤 宏昭、奥山 浩幸、
高橋 憲悦、大森 秀一、楯石 光弘、佐藤 雄一、
安倍 太郎、森山 行輝、丹野 清、阿部 浩章
- 2 調査期間 令和2年1月21日から
令和2年1月23日まで 3日間
- 3 調査地 及び調査内容
(1) 愛知県豊田市
・ものづくり創造拠点SENTAN（センタン）について

(2) 岐阜県岐阜市
・岐阜市健康ステーション事業について

4 目 的

(1) 愛知県豊田市

・ものづくり創造拠点 SENTAN（センタン）について

豊田市は、愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の17.8%を占める広大な面積を持つ、全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市である。

「ものづくり創造拠点 SENTAN」では、「とよたイノベーションセンター」「豊田市ものづくり産業振興課」「豊田市ものづくりサポートセンター」の3つの支援機関が集約され、ものづくり企業・団体の「新たな事業展開」「イノベーション創出」「ものづくり人材育成」を総合的に支援する新たな拠点となっている。

人工知能やIoTなどの技術革新や エネルギー転換などの新たな事業の展開のための施設と なっていることから、本市としても次世代の技術へのイノベーション創出はもとより、子どもものづくり学習支援などの人材育成やアイデアの掘り起しなど、創業を含め、市内企業の育成が今後必要となることから、今後の本市事業推進の参考とする。

(2) 岐阜県岐阜市

・岐阜市健康ステーション事業について

岐阜市は、市民誰もが心も体も健康で幸せになれるまちを目指しており、暮らしているだけで誰もが健康になれるよう「まちづくり」と「健康づくり」の取組を一体となって進める「スマートウェルネスぎふ」に取り組んでいる。

健康ステーションは、「スマートウェルネスぎふ」を推進していくための施設で、健康チェックや健康関連情報の発信など、健康づくりのための様々なサービスが用意されており、長良川健康ステーションと柳ヶ瀬健康ステーションの2カ所で運営を行っている。

健康チェック、ウォーキング・ジョギング・ランニング、エクササイズ、リフレッシュ、交流サロン・健康情報コーナー、健康相談・講座など、健康のためのさまざまな利用を想定したステーションとなっており、平日は午前7時30分から開館しているなど、通勤・通学前のジョギングの利用も推進するなど、健康増進に取り組んでいる。

本市としても、みんなで生き生き健康プランを策定し、石巻健康センター あいプラザ・石巻を指定管理して運営しているが街中に一カ所しかないため、より利便性の向上や健康長寿のため、岐阜市の取組を学び、今後の本市事業推進の参考とする。

5 調査概要

(1) 愛知県豊田市

・ものづくり創造拠点 SENTAN（センタン）について

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、人口約42万6千人の年であり全国有数の「クルマのまち」で知られている。又、世界をリードするものづくりの都市でもある。

市税は市の歳入のうち5割～7割を占めていたが、平成20年のリーマンショックや震災による影響で21年度から25年度まで市の税収全体で約30%、法人市民税の約90%が減収した。その後回復傾向にあるものの自動車産業の停滞等により産業構造等の変化に対応する力が課題となっていた。このようなことから、豊田市名誉市民 豊田英二様のご遺族による寄付金をかつようしてものづくり企業の持続的発展を目的に、豊田市ものづくり産業振興プラン2017-2020「ものづくりミライに挑戦する産業創造都市」を目指し「ものづくり創造拠点SENTAN」が開設された。

SENTAN[センタン]には「ものづくり」に必要な要素として、

1. 閃鍛=閃きを鍛える[発想]
2. 千鍛=千の訓練で鍛えれば事は全うできる[根気]
3. 先端=先を行くもの

以上、3つの意味が込められており、それらに基づいて

ものづくり創造拠点 SENTAN とは?
<https://toyota-sentan.jp/about/>



- ① イノベーションセンター
- ② 豊田市ものづくり産業振興課
- ③ 豊田市ものづくりサポートセンター

の3つが総合的に支援する拠点となっている。

(2) 岐阜県岐阜市

・岐阜市健康ステーション事業について

岐阜市の概要 人口 40.9 万人、織田信長公ゆかりの金華山、岐阜城。1300 年以上の歴史ある清流長良川の鶺鴒。名古屋から 30km の中部圏の内陸拠点都市。

背景 健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ、総合特区計画が平成 24 年 3 月に認定された。

「健康ステーション」はその計画の推進のための施設（2カ所）。

施設の概要

- ◎長良川防災・健康センター (平成 28 年 4 月開設)
- ・開所時間 午前 7 時 30 分～午後 9 時 ・休館日 毎週木曜日
 - ・利用者数 平成 30 年度 31,461 人 ・駐車場 110 台
 - ・運動スペース 約 175 m² ・1 日当たり 103 人
 - ・ウォーキングマシン、エアロバイク、定期的健康づくり教室
 - ・健康測定コーナー (脳、血管年齢、骨健康、血圧、体重・体組成計)
 - ・交流サロン (サークル活動の拠点、健康に関する情報発信)
 - ・利用料 シャワー (100 円/5 分) 以外、館内無料

委託料 総事業費約 3,000 万円、その内、運営委託費約 2,500 万円

施設の目的

- ・健康づくりの「きっかけ」を提供 仲間づくり支援。
健康講話 (医師会・歯科医師会・薬剤師会 市より講師料)
健康フェスタ (健康講座特別講座・ノルディックウォーク大会など)
ウォーキング・ランニングの支援 (更衣室、ロッカー、シャワー室)

今後の見通し

市街地の 1 カ所の健康ステーションは、再開発・35 階超高層複合ビルを建設して、その 3 階へ移転予定 (令和 4 年度、延面積 58,000 m²)

更なる発展

新市長公約による「クアオルト健康ウォーキング」平成 30 年アワード受賞
それは、ドイツのクアオルト (健康保養地) で行われている心筋梗塞や狭心症のリハビリ、高血圧、骨粗しょう症などの運動療法を基に、日本で考案された「心身の健康づくり」のためのウォーキング。また同時に自然・歴史文化遺産などと組み合わせた新たな体験型観光の推進。

健康寿命の延伸と「本物志向の観光まちづくり」の推進を目指す。

6 所 感

(1) 愛知県豊田市

・ものづくり創造拠点 SENTAN（センタン）について

令和2年1月21日「ものづくり創造拠点SENTAN」の施設を見学すると、交流施設にはミーティングスペースがあってグループでアイデアを共有できるように半個室になっている。相談室は完全個室になっており、技術経営相談などプライベートな情報交換に使用できるような間取りで利用しやすいと感じた。また、ワークショップ、発表会、会議等に使用できるセミナールーム、さらに化学実験ができるサイエンスルームやその場所で即アイデアをカタチにできるように、「ものづくりスペース」があり、金工、レーザー加工・電気・プリント、レーザーカッターや3Dプリンタ・NCフライス盤等さまざまな工作機器が揃っていて、工作機械の活用により試作品の製造が可能であり、さらに「交流スペース」では出会いを通じた新たな発想の場として多くの市民が交流を深めることができる。又、産業支援策として新事業の創出、企業支援には新製品開発や起業を支援する等、官民が一体となって発展してきたことが伺えることから、「ものづくり創造拠点SENTAN」は、人々が求める「ものづくりのまち」として重要な機能を果たしていると思った。

1. 開放特許マッチング

2. ベンチャーマッチング事業

3. イノベーション人材育成

(1) ものづくり未来塾

4. 販路開発支援

(1) 豊田ものづくりブランド

(2) とよたビジネスフェア

などがある・・・

まさに

豊田市は、自動車産業だけでなくものづくりの先端を行く名実共にふさわしい「ものづくり創造のまち」であると感じた。

(2) 岐阜県岐阜市

・岐阜市健康ステーション事業について

岐阜市の健康づくりへの並々ならぬ意欲が感じられた。

いち早く、健康立市を掲げ、ウォーキング推進や筋トレ体操をはじめ様々な健康政策に力を入れてきた事が理解できた。健康ステーションが2カ所もあり、朝7時30分から午後9時まで原則無料で自由に利用できるのは驚きであった。

市民健康基本計画も平成14年度からスタートで、もうすでに第3次計画18年目、その中で平成24年認定の健康長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区計画認定は大きな意義があると思う。やはりコンセプトなどの考え方がしっかりと市役所全体、多くの市民に理解され、共有されているのではと感じた。

7 調査による石巻市への政策提言等

(1) 愛知県豊田市

・ものづくり創造拠点 SENTAN（センチタン）について

本市での「ものづくり」を考えると、石巻専修大を拠点として石巻地域産学官があり地域産業の創出、地域の活性化まちの発展等を目指して、環境部会やマリフード部会が設置されて自動車関連や環境・水産等について研究、開発等の事業展開をしていると認識しておりますが、いまいち石巻のものづくりの拠点になっているという思いに至っていないのが実情であります。このことから、豊田市の「ものづくり創造拠点SENTAN」のような施設でなくとも、例えば現在廃校になった旧大須小中学校を水産資源の研究センターやものづくりセンターなどの施設に一部をリニューアルして誰もがそこへ行けば市民や企業が試験的なものづくりができるように、また、新製品の開発や販路開拓支援室や子どもものづくり学習支援が連携して支援できるような施設にすべきである。

(2) 岐阜県岐阜市

・岐阜市健康ステーション事業について

本市のメタボ率全国ワーストクラス、などという不名誉な現実の認識をはじめ、健康レベル、健康意識の低さの改善は、すぐさま総力を挙げてやらねばいけない。

そのためには、1点目、体の現状を数値で表し、「このままではダメだ」という事を自覚していただくチャンス・機会を多く作ることが必要と考える。各支所や公民館に気軽に測定できる血圧計や体組成計などを設置してミニ健康コーナーを設けて、健康情報を豊富に学べ、いつでも、どこでも、だれでも、楽しく測れ、日頃から数値が自然な話題になるよう工夫すべきと考える。

もう1点、歩いて暮らせる町の実践。本市でも身近なところに、クアオルト健康ウォーキングに適した地形があることを活用し、歴史文化資源を付加価値に加えることも面白いと考える。単なるウォーキングではなく、「人の健康は町の健康」の視点に立ち「健康づくりは」は「まちづくり」そのものとする。

自然の野山を活用する、四季の移り変わりを感じ、小鳥のさえずりを聞きながら、指導員と一緒に安全に効果的に歩くという新しい提案でもある。

まずは市役所各部が笑顔で連携してオール健康推進、楽しい気運を高める。

職員、議員自ら率先して健康づくりを実践することが大切。そのうえで、産、学、医、民、官の連携を積極的に提案する。

健康づくりはゴールのない駅伝であり、最終目的は、健康寿命を延ばし、人づくり、まちづくり、幸せ作り、持続可能でスマートな石巻づくりである。

8 調査経費 733,960円

9 添付書類 別添資料のとおり